

第96号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

<E-mail>

matsuoka@kosanji.or.jp

彼岸

「西」は太陽の沈む方向であり、一日の営みが終わってすべての衆生が安らかに満足して帰ってゆく場所、すなわちすべての存在が最後に帰ってゆく本来の世界を表しています。まさしく西方浄土です。

春分と秋分の日、昼と夜の長さが同じで、太陽が真東から出て真西に沈みます。中国の浄土教では太陽が真西に沈むところから、日没の所にアミダ仏の浄土を想って落日を拝んだと伝えられます。四天王寺では彼岸会に落日を拝む行事として受けつがれて来ています。

そして、毎日、忙しさに追われ惰性に流されながら生きていく私たちに、春秋の時節の折り目を縁に聞法をしていきたいものです。



平成二十七年 春季彼岸永代経 (講師 前田健雄 師)

無明

われわれは皆、無明の中にいます。

無明とは、真つ暗闇のことです。その中にいるわけです。まったく明かりのない世界です。

清水寺に隋求堂というお堂があります。そのお堂に入るとまず階段があり、その階段を下りるとだんだんと暗くなっていきます。やがてまったく周りが見えなくなってしまう。目を開けていても目を閉じているような感じになります。もはや、手すりだけが頼みの綱で、前の人とぶつかったり、後ろの人がぶつかったりすると不安にかられます。

無明というと私はこのお堂の体験が思い出されます。しかしわれわれはそんなに真つ暗なところにいるわけではないと思ってしまう。少しは見えているのだと思っております。無明とは絶望している人の世

界だと他人事のように思っているかもしれない。

これらの思い込み自体が無明だということです。

われわれは真実を見る目を持っていません。ですが、あたかも自分が正しいと思ひ込み、自分の見ている世界は真実に違いないと思うのです。私にはまったく真実がないとわかれば仏の教えはすっと入ってくるのでしょうか。

一般的に不幸と言われる、老い、病、別れ、死などにより「真つ暗だ」と納得した時に阿弥陀さんの光明が見えてくるのでしょうか。我々が持っている煩惱が苦悩を生み出し、その苦悩が仏の教えの縁結びをしてくれるのではないのでしょうか。

清水寺の隋求堂は平成12年に作られたお堂らしいです。一度行ってみてください。階段を降り真つ暗になったところ、そこがわれわれの現在住んでいるところなのです。

携帯電話からの呼び声

伊藤教信

携帯電話の電話帳の名前欄に、あだ名を載せる人はよくいるが、母の電話帳には、私の父（伊藤孝道）の名前欄がなぜか綾野剛になっている。綾野剛とは34歳の人気俳優のことです。

父親にしてみれば失礼な話だが、息子の私としては、なんとも愛しい母ではないかと思った。

しかし、それよりも興味を引いたことがある。

それは名前欄に別人の名前を入れるという大胆な発想だ。

ということだ、

私も真似して、父親の名前欄を南無阿弥陀仏にしてみようかな、とふと思った。

そうすれば、電話の向こう側の声にしは耳を傾けられるかもしれないな、と。

数日後、

父親に電話をしようとして携帯の連絡先を探したのだが、連絡先が見当たらない。

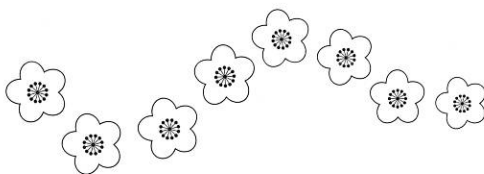
「どこ行った!？」とイライラ。

そして、ハッと気づく。

そうだ…。

南無阿弥陀仏に名前変えたのだった。

自分で掘った落とし穴に気づかず、落ちてしまった気分です。



三月行事予定

三月十二日(土) 七時 同朋委員会・総会

(役員は六時半)

十九日(土) 二時～四時 学習会

〈春季彼岸永代経・蓮如講 執行〉

二十日(祝) 十時 おつとめ

おとき 説教 前田健雄師

一時 おつとめ

三時 帰敬式

二十一日(月) 三時 おつとめ・法話

二十二日(火) 三時 おつとめ・法話

二十三日(水) 女人講・報恩講

十時 おつとめ・住職法話

おとき

一時 おつとめ

二十八日(月) 二十八日講・総会

十時 おつとめ・住職法話

おとき

四月行事予定

四月二日(土) 二時 常任委員会

九日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は六時半)

十九日(火) 二時 学習会

二十八日(木) 十時 おみがき

※同朋会旅行：四月十七日(日)

真宗四本山

東本願寺・西本願寺・興正寺・仏光寺 団体参拜

参加費 七、五〇〇円

定員 四十五名(定員になり次第締め切り)

ぜひ、ご参加下さい。

【東別院行事】

・宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

四月二十二日(金)～二十四日(日)

朝市や、大須の街でのスタンプラリーなど年齢に
関係なくお楽しみいただけると思います。

・伝統法要

四月二十六日(火)～五月一日(日)

(駐車場はございませんので公共交通機関をご利用下さい。)